

I 各調査の概要

1 推計調査の概要及び回収結果

(1) 調査の目的

- ア 前回調査から6年経過していることから、経年変化を捉え、区の最新の傾向を把握する。
- イ 今後の支援検討に活かすため、年代やひきこもりの程度の推移などの基礎データを得る。

(2) 調査名

足立区生活状況・意識に関するアンケート調査

(3) 調査項目

全40項目

※ 詳細は、VI 各調査で用いた調査票 のP173～190を参照

(4) 概要及び回収結果

	詳細
対象	区内在住の15歳以上（中学生を除く）～64歳以下の男女 足立区住民基本台帳（令和7年9月30日時点）より無作為抽出
調査数	5,000人※
調査時期	令和7年11月14日～12月19日
回収方法	調査票返信、オンラインのいずれかで回答
回収結果	1,921人（調査票949人、オンライン972人） 回収率：38.4%
その他	礼状兼督促状はがきともに1回
参考	足立区での前回調査は令和元年に実施

※ 前回調査3,500人から、本調査ではより実情に近い推計とすることから、1,500人増の5,000人を対象として実施

(5) 調査区域

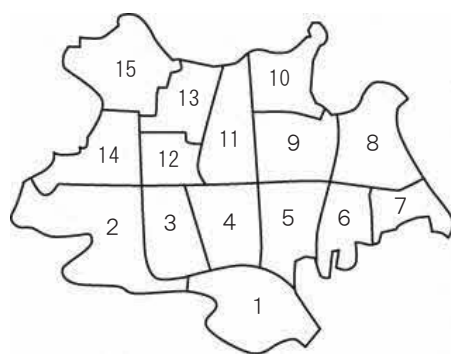

 地域区分図

表 調査地域一町丁目対応表

地域名	地区町丁目名	標本数
第 1	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町	5 6 2
第 2	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目	3 4 3
第 3	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町	2 9 0
第 4	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目	4 5 0
第 5	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目	4 5 0
第 6	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目	3 6 7
第 7	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目	2 5 2
第 8	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目	4 0 0
第 9	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目	3 7 5
第 10	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目	2 0 7
第 11	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目	3 7 8
第 12	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目	2 0 8
第 13	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目	2 5 4
第 14	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目	2 5 6
第 15	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園	2 0 8

2 本人・家族への調査の概要及び回収結果

(1) 調査の目的

ア ひきこもりに至った背景や期間、支援として望むことを把握し、生きづらさに寄り添う支援に活かす。

イ ご家族への支援を検討・強化するため、家族の思いや家庭内での悩みなどを把握する。

(2) 調査名

ひきこもりに関するアンケート調査

(3) 調査項目

全30項目

※ 詳細は、VI 各調査で用いた調査票 の P191～204 を参照

(4) 概要及び回収結果

	詳細
対象	これまでに「セーフティネットあだち」や「足立ひきこもり家族会」につながったことがある本人または家族
調査数	183人 ・ セーフティネットあだち：122人 ^{※1} ・ 足立ひきこもり家族会：61人 ^{※2}
調査時期	令和7年11月8日～令和8年1月10日
回収方法	調査票返信、オンラインのいずれかで回答
回収結果	60人（本人：31人、家族：29人） 回収率32.8%
その他	家族が答える際は「家族が本人視点」で回答

※1 「セーフティネットあだち」につながっている本人または家族（過去につながったことがある方を含む）に郵送または手渡し

※2 足立ひきこもり家族会を通じて郵送または手渡し

3 関連事業者への調査の概要及び回収結果

(1) 調査の目的

- ア ひきこもりを把握する可能性が高い介護サービス事業者に、関わりの有無や現場での困りごとを捉える。
- イ 8050世帯の実態から、特に支援につながっていない可能性が高い40、50代のひきこもりの実態や状況を捉え、今後の検討に活かす。

(2) 調査名

介護の現場から見える「ひきこもり」に関するアンケート調査

(3) 調査項目

全15項目

※ 詳細は、VI 各調査で用いた調査票 のP205～213を参照

(4) 概要及び回収結果

	詳細
対象	・ 地域包括支援センター（ホウカツ）※¹ ・ 区内介護サービス事業者（訪問サービス分野）※²
調査数	530事業所（ホウカツ、居宅介護、訪問看護、訪問介護）
調査時期	令和7年11月17日～12月19日
回収方法	調査票をメールで返信、オンラインのいずれかで回答
回収結果	87事業所（メール8、オンライン79） 回収率16.4%
その他	事業所単位で回答

※1 ホウカツ（25か所）

高齢者地域包括ケア推進課にて運用しているメーリングリストにて送付

※2 居宅介護（189事業所）、訪問看護（94事業所）、訪問介護（222事業所）

介護保険課にて運用しているメーリングリストにて送付

4 本報告書を読む際の留意点

- (1) 本文、表、グラフなどに使われている（n）は、各質問に対する回答者数で、100％が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 結果は、百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入してある。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがある。
- (3) 標本誤差は回答者数（n）と得られた結果の比率によって異なるが、単純無作為抽出を仮定した場合の誤差(95%は信頼できる誤差の範囲)は下表のとおりである。

各回答の n 比率	10% (又は 90%)	20% (又は 80%)	30% (又は 70%)	40% (又は 60%)	50%
5,000	± 0.8%	± 1.1%	± 1.3%	± 1.4%	± 1.4%
1,865	± 1.4%	± 1.8%	± 2.1%	± 2.2%	± 2.3%
1,500	± 1.5%	± 2.0%	± 2.3%	± 2.5%	± 2.5%
500	± 2.6%	± 3.5%	± 4.0%	± 4.3%	± 4.4%
100	± 5.9%	± 7.8%	± 9.0%	± 9.6%	± 9.8%
56	± 7.9%	± 10.5%	± 12.0%	± 12.8%	± 13.1%
30	±10.7%	±14.3%	±16.4%	±17.5%	±17.9%

なお、誤差には回答者の誤解などによる計算不能な非標本誤差もある。

- (4) 各群の定義は次のとおりである。
- ア ひきこもり群：内閣府が実施した「こども・若者の意識と生活に関する調査」および前回調査「広義のひきこもり群」に相当する群。詳細は、II 推計調査結果詳細 のP7～8を参照。
 - イ その他群：内閣府が実施した「こども・若者の意識と生活に関する調査」および前回調査「広義のひきこもり群以外」に相当する群。
- (5) 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の質問の文言を簡略化してある。

